

## 外務省への 出向

外務省 国際法局  
経済条約課 課長補佐

## 日下 智紀

### 経済条約課というところ

現在、外務省の国際法局経済条約課(経済分野の国際約束を所管)に出向し、租税条約に関する業務を担当しています。租税条約も他の条約と同様に、1本締結するだけでも、政府間交渉、法制局審査、国会承認、公布など終わりまで長い道のりで、財務省主税局の協力を得な

平成25年入庁

国税庁課税総括課、留学(ジョージタウン大学大学院など)、内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室、財務省国際局地域協力課補佐などを経て、令和5年から現職。

がら取り組んでいます。

### 淡々と淡々と…(意外と地味?)

条約なんて国同士の約束だし、滞りなく終わって当然と誰もが思う(ように自分は感じる)、他方で、不測の事態も意外とあり、ということで、それが無いよう淡々と事実関係の確認を積み上げていくので、細かいことに神経を割く仕事かもしれません(でも実際は予想を超えます…)。

### 社会の転換(意外と華やか?)

社会の変化に対応するため、新しい仕組みを世界全体で作ったりする必要も、というのご承知のとおりで、租税の世界も同様です。過去には「税源浸食・利益移転」といった問題に対処するためのマルチ条約ができたり、今は経済のデジタル化と国際課税の伝統的な原則とを折り合わせられるかといった議論が進んでいたり、社会の大きな転換の中で仕事をする機会もあつたりします(華やかかはさておき、「100年に1度」と言われたりもします)。

### 結局のところ

総じてコツコツ、でもそれが大きな形に結びつくことも、ということで、何か特別というよりも、結局は世の中のどの仕事とも同じところが多岐に思えます。だからこそ、業種を問わず様々な選択肢を持っていただき、その一つとして、国家間の約束に携わる機会もある国税庁に少しでも関心をもっていただけたらとても嬉しく思います。

ピードの速さや多様性の高さゆえ、驚きや戸惑いもありますが、一人一人の裁量も大きく達成感があります。

### 私のお仕事

三つの業務を担当しており、共通しているのは、コロナ禍の10万円給付をスムーズに実施できなかったデジタルの反省です。

一つ目は、給付金をスムーズに受け取れるよう、事前にデジタル庁に口座をご登録いただく公金受取口座制度の運用です。より多くの方にご登録いただくことや利用の促進に向けて取り組んでおり、法改正も行いました。

二つ目は、給付金の申請から振込までデジタル完結できるシステムの構築です。必要な方に効率かつ迅速に給付金をお届けできる基盤作りに取り組んでいます。

三つ目は、マイナンバー制度です。デジタル社会の基盤であるマイナンバーの更なる利用推進のため、利用分野の拡大などの法改正を行いました。

### 出向を通して

デジタルやマイナンバーは税務行政に欠かせず、デジタル庁での経験が今後生きるものであり、国税庁での経験は他の行政事務に貢献できることが沢山あります。幅広い経験を通じて日本を支えるために、国税庁で働きませんか。



## 国税庁総合職として 主税局で働く

平成22年入庁

財務省 主税局  
税制第二課 課長補佐

## 長肉 泰祐

留学(フロリダ大学)、国税庁人事課補佐、佐久税務署長、国税庁個人課税課補佐、国税庁課税総括課補佐などを経て、令和5年から現職。

### 主税局での日々

「インボイス制度の円滑な導入と定着」という16文字を考え続け、主税局に赴任してからのおよそ半年間が過ぎました。

消費税導入以来の大改正と呼ぶ人もいるインボイス制度。7年以上前に導入が決まり、2023年10月から実際に導入されたこの制度の担

当者を、開始直前の7月から担当しています。

世の中には反対する人も少なくない制度ですが、消費税率が単一でなくなったからには必要な仕組みです。その円滑な導入と定着に向け、政府内外との調整に明け暮れる半年間を過ごしてきました。

### 半歩外から税務行政を考える

主税局は、経済・社会の変化を踏まえて必要な税制改正を考えることが主任務です。これに加え、私の重要な任務は、インボイス制度が正しく機能するように関係省庁や事業者団体等と意思疎通し、やり過ぎは諒め、遅れていれば背中を押す、というコーディネーターのような業務。

執行の要である国税庁との連携は特に重要です。制度自体に責任を持つ主税局の視点で物事を考えつつ、これまでに培った税務行政の知見をフル活用して国税庁に依頼・提案・時には説得しています。半歩外から税務行政を考えるような日々です。

### 国税庁総合職とは

税務行政は、「税」という非常に専門的な切り口から「全ての社会・経済」を相手にしています。インボイス制度を担当するようになってから、人生で関わるとは思ってもいなかった業界の人々とやりとりをするようになりました。高度な専門性を身に付けつつ、広く世の中と関わりたい。国税庁総合職は、そんなワガママな職業観を満たすことができる、稀有な職場だと思います。



## 幅広い フィールド

平成16年入庁

滋賀県警 警務部長

## 尾張 佳也

財務省主税局租税協定第一係長、留学(南カリフォルニア大学大学院)、カジノ管理委員会総務課補佐、国税庁資産課税課補佐などを経て、令和5年より現職。

### 警察職員としての職責

私は現在滋賀県警に出向し、総務、人事、会計、システム開発・運用などを担当する警務部の部長として勤務しています。「県民の安全・安心のために」24時間体制で、時には身の危険にさらされ過酷な業務に従事する警察職員に深い敬意を抱きながら、いかに時代に即応しつつ働

## 出向を通して

デジタル庁 参事官補佐

## 新垣 南

### 新しい組織で働く

デジタル庁は2021年9月に発足し、「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル」を目指しています。新しい事へのチャレンジが多く所掌も幅広いため、大変なことも多いですが、多種多様なバックグラウンドを持つ官民の職員が力を合わせて課題解決に取り組んでいます。ス

平成22年入庁

留学(南カリフォルニア大学)、大阪国税局個人課税課補佐、国税庁企画課補佐、出雲税務署長などを経て、令和4年から現職。